

# 令和5年度 日之影町立高巣野小学校 学校評価

○「評価」について、目標の達成度に基づき、次の4段階で評価を行う。  
 4：期待以上、3：期待どおり、2：やや期待を下回る、1：改善が必要  
 ○「評価者」…「第一次」：学校による自己評価、「第二次」：保護者評価、「第三次」：学校運営協議会委員評価

評価	達成目標と方策	第一次評価者所見	評価			
			第1次	第2次	第3次	
学力向上	1	45分の授業の充実を図るとともに5分以上の習熟の時間を確保し、「分かる授業」「鍛える授業」を目指し、児童に確かな学力を身に付けさせ、各種学力検査で全学年、全領域で平均（全国・県）を上回るようにする。	授業後45分習熟の時間を確保するように努めた。また、教科書の他にドリル学習アプリを積極的に活用することで、個々の習熟度や進捗に合わせて習熟できるようにしている。各種学力検査の結果は、分析及び協議を行い、授業力向上とその後の授業に生かした。全国学力・学習状況調査では、全領域で平均（全国・県）を上回った。	3	3	3
	2	簡潔で分かりやすい指示・発問に努め、85%以上の児童が集中して話を聴いたり、自分の考えを述べて発表したりすることができるようにする。	93%の児童及び89%の教員が「3」以上と評価している。年間を通じて「話を聞くこと」や「相手意識をもって話すこと」を指導してきた結果だと思われる。「話を聞くこと」は、学習の基本であるため、今後も継続して指導していきたい。	3	3	3
	3	ICT機器等を活用して個人や集団でしっかり思考する場を工夫するとともに、対話を通して、児童同士が教え合い、互いを高め合いながら、考えをまとめていくことができるようにする。	ローマ字入力でのタイピング等、児童のICT活用能力は、優れていると感じている。主題研究で取り組んでいる「協働的な学び」が実践の中で生かされ、児童の中で、「教え合い」や「学び合い」といった意識が高まっている。また、そのスキルも高まっている。	3	3	4
	4	読書指導や読み聞かせの充実を通して、1週間に1冊以上借りる等の個人読書目標をもたせ、100%の児童が目標を達成できるようにする。	従来の活動に加え、「朝の読書タイム」や「わくわく読み聞かせランド」「家庭読書の日」などの新しい取組を実施し、読書意欲の向上に努めた。昨年度と比べ、図書スペースの利用や本の貸し出し回数増加したが、個人差が見られる。読書の魅力を伝えながら継続して取り組んでいきたい。	3	3	3
生徒指導	1	あいさつや返事、礼儀の指導を徹底し、学校や家庭、地域で時と場合こじれたあいさつやお礼など90%以上の児童が達成できるようにする。	90%の児童が「3」以上の評価をしているが、教師は67%にとどまった。地域からも「あいさつの声小さい」等の声も聞こえるため、時と場合によっては、返事やあいさつがきちんと伝わっていない場合があると思われる。このことを児童に投げかけつつ、気持ちの良いあいさつの仕方等を考えさせたい。	3	3	3
	2	思いやりのある行動や丁寧でやさしい言葉遣いを90%以上の児童ができるようにする。	「3」以上の評価を付けている児童は93%である。一方で、教師及び保護者の評価は、それぞれ78%と76%であった。児童と教師・保護者の評価の違いを分析することが、目標を達成するために大切だと思われる。しっかりと検証していきたい。	3	3	3
	3	ろうか歩行や室内での過ごし方など、考えて判断・行動し、90%以上の児童がはじめのある行動がとれるようにする。	93%の児童が「3」以上の評価である。一方、教師の評価は55%であった。この項目についても、児童と教師の評価に差がある。一方的な指導ではなく、正しい行動や考えを伝えさせながら、身に付けさせたい。	3	3	3
	4	学校・地域における行事やボランティア活動等に90%以上の児童が進んで参加できるようにする。	学校では、行事やボランティア活動に進んで取り組むことができている。また地域については、少年団や習い事等で日程が合わない場合もあるが、積極的に参加している。	3	3	3
体力向上、安全指導	1	体育指導法の充実を図り、90%以上の児童が全力で運動に取り組むとともに、友達と協力しながら競技することができるようにし、「県体力テスト」でA及びB判定の児童が70%以上になるようにする。	体育の授業を楽しみにしている児童が多く、体全体を使って精一杯運動に取り組んでいる。このこともあり、全児童が3以上の評価であった。一方、体力テストのA及びB判定の児童は45%であった。朝の朝時間のパワーアップ体操や体育の授業を充実させ、改善していきたい。	3	4	3
	2	「学校で天気の良い日には、積極的に友達と仲良く外遊びをしている」と回答する児童が90%以上になるようにする。	天気の良い日に外遊びをする児童が多く、児童自身の評価も全員が「3」以上であった。「仲良く遊ぶ」という点については、良い人間関係をつくるための経験の場と捉え、適切指導していきたい。	4	3	4
	3	立腰指導を徹底し、「様々な場面（学習・給食など）で姿勢に気を付けている」と回答する児童が90%以上を達成できるようにする。	評価が「3」以上の児童が83%であった。形式的な指導にならないよう、良い姿勢をとることの趣旨説明を行いながら指導し、意識の向上を図りたい。	3	3	3
	4	家庭と連携して生活リズムやメディアの利用の注意喚起を図り、「8時間以上の睡眠をとり毎朝朝食を食べている」と回答する児童が100%になるようにする。	評価「3」以上の児童が91%、保護者が83%であった。養護教諭を中心に、保健室や子どもや週間、学校保健委員会等を通しての啓発が効果的だったと思われる。今後も継続して取り組んでいきたい。	3	3	3
家庭・地域との連携	1	保育園への訪問や保育園児の小学校体験などの相互の交流の充実を図り、互いのよさを味わわせるとともに、職員間の研修や交流も行き、連携した教育を推進する。	1・2年生を中心に積極的に交流学習を行っている。毎年定期的にっており、反省と改善を重ねながら充実した学習になるように努めている。職員間では、担当者レベルでの交流及び研修も行っている。今後も交流や研修の場を確保し、連携した教育を円滑に実施できるようにしていきたい。	4		4
	2	町教職員研修会や町教育の日、集合学習等への積極的な取組を通して、小・小中の連携した教育の充実を図る。	町教職員研修会や町教育の日等への取組を通して、各小・中学校と、連携した教育を図ることができた。また、複式学級を有する日之影小学校と、授業や学級連絡に関する合同研修会を実施した。複式指導に関する共通の課題等を柱に協議したことで、すぐに授業等に生かすことができた。	4		3
	3	コミュニティースクールとしての機能を生かし、家庭や地域との連携を深め、家庭や地域社会の教育力の積極的な活用を図る。	ふれあい会や保護者によるキャリア教育、運動会等において、地域や保護者の方々の協力を得ながら実施することができた。今後もコミュニティースクールとしての機能を生かし、家庭や地域との連携を深めていきたい。	3		4
	4	ホームページを活用し、家庭や地域に学校行事や児童の様子を発信し、情報提供を図る。	定期的にホームページを更新し、家庭や地域に学校の様子を発信することができた。今後も、安定して継続していきたい。	4		4